

【足立区地域自立支援協議会 精神医療部会】会議議事録

会 議 名	令和7年度 足立区地域自立支援協議会 第1回精神医療部会					
事 務 局	衛生部 足立保健所 中央本町地域・保健総合支援課					
開催年月日	令和7年7月29日（火）					
開催時間	午前10時 ～ 午前11時30分					
開催場所	足立保健所2階会議室					
委 員 出 席 者	部会長	森澤 美穂	委 員	樺沢 えり	委 員	初鹿野 学
	委 員	西村 健司	委 員	鈴木 こずえ	委 員	増田 和貴
	委 員	片桐 愛子	委 員	吉村 あいこ	委 員	秦 英一郎
	委 員	久下 えみ子	委 員	石黒 雅浩		
	委 員	小杉 信之	委 員	内田 聖子		
委 員 欠 席 者	委 員	松岡 優子	委 員	山本 武史		
会 議 次 第	1 開会挨拶 2 委嘱状交付 3 委員紹介 4 足立区地域自立支援協議会の目的・機能 5 令和7年度 足立区地域自立支援協議会 精神医療部会 活動計画 6 令和7年度「精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築」に係るワーキンググループの活動計画 7 令和7年度「精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築」に係るワーキンググループの活動状況 8 各部会員からの情報提供等 9 事務連絡					
資 料	資料1 令和7年度足立区地域自立支援協議会 精神医療部会 名簿 資料2－1 足立区地域自立支援協議会の目的・機能 資料2－2 令和7年度足立区地域自立支援協議会精神医療部会活動計画 令和7年度「精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築」に係るワーキンググループの活動計画 資料3 「精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築」に係るワーキンググループの活動状況 資料4 第1回精神医療部会情報提供資料					
そ の 他	司会：本間 一陽（中央本町地域・保健総合支援課 精神保健係長） 説明：田中 恭子（中央本町地域・保健総合支援課 精神保健担当係長）					

令和7年度第1回精神医療部会
足立保健所2階会議室

【事務局 本間】

それでは、お時間となりましたので、足立区地域自立支援協議会第1回精神医療部会を開始いたします。本日は大変暑い中出席いただき、誠にありがとうございます。本日司会を務めさせていただきます中央本町地域・保健総合支援課精神保健係の本間です。よろしくお願いいたします。

協議に先立ちまして、配布資料の確認をさせていただきます。資料1、精神医療部会名簿、資料2の1地域自立支援協議会の目的と機能、資料2の2精神医療部会活動計画と、精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築に係るワーキンググループ活動計画、資料3がワーキンググループ活動状況、資料4が情報提供資料です。資料がない方いらっしゃいますでしょうか。

次に、この精神医療部会は発言等会議内容に発言者名など後日、議事録を公開いたしますので、議事録作成のための録音もしております。本日御発言をいただいた委員の皆様には後日、議事録の原稿をお送りして、内容の確認をしていただきますので、あらかじめご了承ください。また、今回傍聴席を設けておりますことをご了承願います。それでは、令和7年度足立区地域自立支援協議会第1回精神医療部会を開会いたします。初めに開会の挨拶です。足立保健所長の増田よりご挨拶いたします。

【増田所長】

皆様、こんにちは。今年の4月に足立保健所長に着任しました増田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は暑い中、また大変お忙しい中、足

立区地域自立支援協議会精神医療部会にご参加いただきまして誠にありがとうございます。また日頃より、区の政策にご理解ご協力を賜り感謝申し上げます。

さて、精神医療、精神障がい者対策としては、今、国、日本全体におきまして、入院から地域へといった流れになっています。精神を患っている方も地域で生き生きと生活できるように、足立区でも精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築に係るワーキンググループを立ち上げて検討を進めているところでございます。

足立区は23区で見ても、やはり生活保護の保護率が高い。また、精神病院が多い関係からも、精神を患っている方々が集まりやすい、そういった地域性がございます。足立区ならではの精神障がい者のケア、支援のあり方を今後構築していければと考えておりますので、ぜひ委員の皆様からは、貴重なご意見を賜れば幸いに存じます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

【事務局 本間】

ありがとうございました。続きまして、次第2番委嘱状認定書の交付ですが、新しく委員に就任された方については、本来ならば、足立区長より交付いたしますところ、大変恐縮ではございますが、協議時間を十分とらせていただくために、委嘱状等を席上にあらかじめ配付させていただきました。何卒ご理解をよろしくお願いいたします。

次に、次第3番、委員の紹介に移ります。資料1をご覧ください。本来であれば、一言ご挨拶をいただきたいところではございますが、時間の都合上、お名前のみを読み上げさせていただきますので、お座りのままで挙手をお願いいたします。

森澤委員、西村委員、片桐委員、久下委

員、小杉委員、鈴木委員、吉村委員。内田委員、石黒委員、増田委員、秦委員。よろしくお願いします。なお松岡委員、山本委員におかれましては本日、欠席のご連絡をいただいております。

また、樺沢委員と初鹿野委員につきましては、遅れて来られることとなっております。それでは、次第の4番から議事となります。ここからは森澤部会長、議事進行をお願いいたします。

【森澤部会長】

それでは議事を進行してまいりたいと思います。部会長の森澤です。よろしくお願いいたします。それでは次第の4番になります。足立区地域自立支援協議会の目的と機能となります。こちらを中央本町地域・保健総合支援課の田中係長、説明、よろしくお願いいたします。

【事務局 田中】

よろしくお願いいたします。私からは、4番の足立区地域自立支援協議会の目的と機能について説明させていただきます。資料2-1を御覧ください。この精神医療部会は、足立区地域自立支援協議会という大きい協議会の中の専門部会という位置づけになります。今一度、新しい委員さんもうらっしゃいますので、足立区地域自立支援協議会について説明させていただきます。

まず、法的な位置づけとしては、資料に記載のとおり、地方公共団体は「障がい者等への支援体制の整備を図るため、関係機関、関係団体、障がい者、その家族並びに障がい者等の福祉、医療、教育または雇用に関連する職務に従事する者その他の関係者により構成される協議会を置くよう努めなければならない。」

また、協議会につきましては「関係機関が相互の連絡を図ることにより、地域の障がい者等への支援体制に関する用法及び支援体制に関する課題についての情報を共有し、関係機関等の連携の緊密化を図るとともに、地域の実情に応じた体制の整備について、協議を行うものとする」となっております。

このような法的な位置づけがあり、足立区地域自立支援協議会が設置されております。

次に、役割に関しましては、記載のとおり、個別事例への支援の在り方に関する協議、調整、地域における課題等の抽出、把握や共有、関係機関の連携強化、福祉計画等への助言などですので、資料をご一読いただければと思っております。

【森澤部会長】

ありがとうございます。

こちらの部会は、年2回ほどやっておりますが、先日、本会議の方にも私は参加させていただきました。こちらの精神医療部会の昨年度の報告ですとか、今年度の計画を報告させていただくという形で、こちら3番の左側の図ができ上がっております。小杉委員も相談支援部会に出席されておりますが、何か自立支援協議会のところで補足説明はありますか。

【小杉委員】

成仁病院の小杉と申します。よろしくお願いいたします。私の方も本会議に出席させていただいております。その中で、協議会を通じた地域づくりの中では、ここにも記載があるかと思いますが、個別の事例から地域へというところを取り組んでいきたいと思います。個別の課題をしっかりと抽出してそれ

を地域課題にしていきたいと思いますという取り組みが重要とされているところ最近も言われております。そういった視点でこの問題を個別の問題で終わらせるのではなくて、地域の課題としてしっかり取り組めるように協議会に情報を上げて、協議会でもそれを協議することが必要なのではないかと思います。ということが最近言われているかと思います。

そして、精神医療部会になります。本会議の方では、昨年度の取り組みとしまして、長期入院者へのアンケートをさせていただきましたが、継続的なものを、ぜひ、次回の会議で聞かせていただきたいということで注文があったかと思います。その辺のお話もできればと思っておりますので、よろしくお願いします。

【森澤部会長】

ありがとうございます。先日の本会議の方で自立支援協議会の会長の方から数値ですとかいろいろと質問がありまして、田中係長がお答えいただいた数字ですとかいろいろアンケートを見ました。そちらの方もしっかりと具体化しながら進めていき、本会議でもご報告できると良いのかなと思います。皆さん、この後の議事の審議でも、意見を活発にさせていただけたらと思います。ご質問は大丈夫でしょうか。

では、続きまして、次第5番、令和7年度足立区地域自立支援協議会精神医療部会活動計画です。次第6番、令和7年度精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築に関わるワーキンググループ活動計画。7番、同じく、にも包括に関わるワーキンググループが活動状況も関連した事項ではありますので、一括で説明と報告を田中係長にお願いしたいと思います。

【事務局 田中】

今年度の精神医療部会活動計画をまずご説明いたします。資料2-2をご覧ください。まず、この精神医療部会についての目的は、地域自立支援協議会の専門部会として、精神障がい者の支援に関する連携と調整等を図るという位置づけとなっております。

活動計画としては、年度内に2回の開催で、今年度は7月と12月に開催を予定しております。内容につきましては、精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築にかかるワーキンググループの活動状況に基づいた重点課題に対する協議と情報共有を図ることになっております。精神医療部会の年2回だけでは、具体的な実情を把握して検討するには、回数が少ないというところもあり、それらに対応する位置づけとして、ワーキンググループを立ち上げております。

続きまして、次第の6番、ワーキンググループの目的と、活動内容についてご説明いたします。

ワーキンググループの目的としましては、先ほども少しお話をしましたが、足立区、医療機関および相談機関等が連携して、足立区の精神障がい者支援に係る現状の確認と課題を整理し、足立区地域自立支援協議会、精神医療部会へ報告等を行い、精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築に寄与するという目的で設定されております。

今年度の活動としましては、令和5年度、6年度にかけて行った長期入院者の調査結果を基に、退院促進に向けて、また、精神障がい者が安心して地域で生活ができるようにするにはどういった支援体制をどのように構築すればいいのか、事業化に向

けて方向性を固めていくとしました。事業化の内容についても、ワーキンググループで検討しております。また、現場の声を反映できるように、他区の視察等も積極的に行っていこうと考えております。

次に、次第7、ワーキンググループの活動状況です。資料3をご覧ください。

まず、今年度の参加団体です。

昨年度は、福祉まると相談課や住宅課等、他部署の職員にも入っていただき、様々な方面からご意見をいただきました。今年度は、昨年度実施した長期入院者調査から、退院促進と地域での生活を支えるための仕組みづくりを、より具体的に検討するため、地域移行事業者と東京都の地域移行体制整備支援事業者等の団体で構成しております。話をすすめる中で出てきた検討内容によっては、また昨年度にご協力いただいた団体にもスポット的にご協力いただけるとありがたいと考えております。

活動状況は、今年度ここまで2回実施しております。第1回は5月14日に行いまして、昨年度の振り返りと今年度の活動についての検討を行いました。昨年度の長期入院者調査から、長期入院者への動機付け支援の部分で、ピアサポーターの重要性を再認識したことと、長期入院者の生活能力をアセスメントできるところがあると良いという意見がありましたので、ピアサポーターとショートステイ事業について、意見を伺い、また、そのような事業を行っている他区に視察に行くこととしました。

他区の視察については裏面をご覧ください。

区独自でピアサポーター育成事業とショートステイ事業を行っている江戸川区に視察に行きました。江戸川保健所と江戸川区からピアサポーター事業の委託を受けてい

る地域活動支援センターこまつがわです。

視察結果ですが、まず江戸川区でのショートステイ事業については、平成25年、当時は障がい福祉サービスの地域移行支援が制度として無く、ショートステイ事業を行っている事業所も少なかったため、入院患者さんの退院促進のために区独自で立ち上げたとのことでした。

現在は地域移行支援やショートステイのサービスが増えたため、区独自で行っているショートステイ事業と障がい福祉サービスの個別給付のショートステイ事業との明確な棲み分けが無くなっているとのことでした。また、現在は退院促進のためではなく、地域でご家族と暮らしている方等が、レスパイト的に利用したり、一人暮らしの練習等で活用されたりしているとのことでした。

ピアサポーター育成事業につきまして、江戸川区が地域活動支援センターこまつがわに委託しております。地域活動支援センターこまつがわにお話を伺って感じたのは、サポートが手厚いということです。まず、研修プログラムは13回と多く、実習も行っているとのこと。また、登録後は、ピアサポーターのミーティングを重視し、月に3～4回ミーティングを開き、依頼があった仕事を受けるかどうか、自分たちがやるべきことなのか、メンバーで話し合っていること、仕事の依頼については、事業所が地域のネットワークの中で活動範囲を広げていることが分かりました。いずれにしても一朝一夕ではできない活動であると感じました。

その視察内容を踏まえて、第2回のワーキングで、何を事業化していくかについても話し合いました。色々と課題はあるのですが、やはりピアサポーターの活躍範囲を

広げられたら良いという意見が出ました。
例えば、地域移行支援事業者と一緒に動いてもらえないか、地域で暮らしている方のサポートとして自立生活援助と一緒に動けないか等です。

現在もふれんどりいで様々な活動をされているピアサポーターですが、さらに活躍できるよう足立区版のピアサポーター事業を今後もワーキンググループで検討していく予定です。

【森澤部会長】

今のご報告のところまでで、何かご質問とか、もう少し知りたいなというところがある方いらっしゃいますでしょうか。

福祉サービスのショートステイ事業と、区独自のショートステイ事業の利用方法等の違いがもしわかりましたら、比較して教えていただければよろしいでしょうか。

【事務局 田中】

障がい福祉サービスのショートステイと、区独自のショートステイ事業の違うところですが、まず一つは受給者証が出るまでの時間が、区独自のショートステイの方が短いことが挙げられます。医師の意見書にて利用可否を決めており、通常の福祉サービスの80項目調査とか、審査会とかそういったものがないのですぐ使えるということです。

本人の負担費用は、一泊食材費500円とリネン代300円で、ここはそれほど福祉サービスのショートステイと変わりはないかと思いますが、大きく違うのは、受給者証発行までの時間と更新手続きの有無です。区独自のショートステイは、今のところ一度登録すれば更新手続きは不要で継続して使えるそうです。現在は、福祉サービ

スのショートステイ事業も充足されてきておりますし、実際は区独自のショートステイとの違いが無くなってきているので、区の独自のショートステイ事業をよく利用されている方には、福祉サービスのショートステイの方に変更してもらっているということでした。

【森澤部会長】

ありがとうございます。皆さんの方から何かご質問等ありますでしょうか。視察のところでもう少し聞きたいというところがありましたらいかがでしょうか。

【事務局 田中】

他に進んでいる視察場所があれば、皆さんからも教えていただければと思います。

【森澤部会長】

ありがとうございます。ちなみに13回の研修プログラムに興味があるのですが、西村委員、今、ふれんどりいのピアサポーターの研修プログラムは、2月ぐらいに4回ほどでしたでしょうか。

【西村委員】

研修回数は、確か4回ぐらいだったと思います。最後に、メンバーさんや受講生と一緒に話し合っ、傾聴の練習や、背景を引き出す話術などの実践練習を行って終了ということになります。

【森澤部会長】

そうするとかなり、江戸川区は3倍近い研修をされていると思いますが、もし、よろしければその内容、田中係長はわかりますでしょうか。

【事務局 田中】

ピアサポートの実際や専門性、セルフマネジメント、ピアアドボカシー、コミュニケーション、支援者として働くということ、ファシリテーション研修、事例検討、リカバリーストーリー、障がい福祉サービスの基礎、職業準備性、地域移行、人権、地域共生社会等の講義の後、実習をされています。

講師の方は外部から招いている部分もあるようです。

【森澤部会長】

ありがとうございます。職業準備性という項目があるということは、ピアスタッフも視野に入れながらのピアサポーター養成ということになりますでしょうか。

【事務局 田中】

こちらの研修を受けた方は、その後、希望される方が登録をして、その中にはピアスタッフとして働く方もいらっしゃいますし、登録の中でやる方もいらっしゃいます。また登録まではいかないけれども、「隣のぴあさん」というグループのメンバーとして、活動をしている方もいらっしゃいます。

【森澤部会長】

ありがとうございます。実はふれんどりいを利用されている方でも、小松川の方に行って、より深くピアを学びたいという方がいらっしゃって、勉強したりしていますという話を聞いたことがありまして、かなり小松川の方では力入れてやっていらっしゃるんだなと思いました。実際にセンターの方にもピアスタッフさんはいらっしゃったんですか。

【事務局 田中】

はい。いらっしゃいました。

【森澤部会長】

ということなので、とても精力的に進められているのかなという様子が垣間見られたかと思います。今の小松川のお話、視察等を通して、今後としては、ピアの活躍範囲を広げていきたいなというところがワーキンググループの課題のところになってくるのかなと思います。

2つほど、ショートステイやピアサポーターの育成事業ということが案として出ておりますが、今は、ピアの活躍範囲というところにまずワーキンググループはとりかかると思ってよろしいですか。

【事務局 田中】

はい。いろいろ課題はあるのですが、まずピアサポーターの活躍範囲を広げるところから手をつけていこうかなと考えております。

【森澤部会長】

ありがとうございます。それでは皆さんにもご意見等を伺いたいなと思います。その前に、西村委員、よろしければ先ほどの続きで、今のふれんどりいでのピアサポーターの活動状況ですとか、今やっているプログラムですとか、何か日々の中で課題等がありましたら、教えていただくことは可能ですか。よろしくお願いします。

【西村委員】

ピアサポーターの西村です。ピアサポーター活動としては、主に3回から4回です。

まず、ピアサポーターが主催して、フリートークの時間、場所を作っています。そ

の中で、皆さんの思っている気持ちを吐き出してもらうことがあります。「語ろう会」という名前で存在しています。

それから、「女子トークの会」というのがありまして、女性ならではの抑圧や何かあるかもしれないということで、ピアサポーターの方も女子、職員さんも女子、語れるメンバーさんも女子で、語ろう会を女子トークという形でやっております。

それから、月におそらく2回になると思いますが、大人のぬり絵の会があります。ピアサポーターと、メンバーさんがぬり絵を一緒にやりながら、過去の病歴などを話してもらって、ピアサポーターさんが傾聴する、まず、そこが会の目的のところですよ。

私も、ついこの間、大人のぬり絵の会がありましたけれども、30～40分ぐらいのわずかな時間、病歴とか服薬とか、以前は何をしていたのか、これからどうしたいとか、結構いろんなことが、短時間でぬり絵をやりながら会話ができたので、これは非常に大きな収穫だったと思います。普通にやったらそんなに進まないのではないかと思います。

また、定例会というのがありまして、その月、前の月の活躍、活動をまとめて、職員さんやピアサポーターさんとシェアしています。今、やれているのはそれぐらいです。

【森澤部会長】

ふれんどりいニュースが届いている方は、もしかしたら、ご覧になっているかもしれませんが、ピアの大人のぬり絵の方は、最近、ピアルーリアンという名前をつけて、確かフランス語で繋がるという意味があって、お互いに繋がりましたみたいな名前をつけられて活動し始めたというところ

だそうです。

今、月3回から4回ぐらいの活動がふれんどりいでのピアの方たちの活動になっているかと思います。

基本的にはあまり、病院の方の受入もコロナ以降、少し厳しいので、なかなかデイケアとかに行くことができなかったり、またコロナ禍でピアの活動が少し細くなってしまったりしたので、それを盛り立てて、もう一度活性化していこうというような動きがふれんどりいの中にあるかと思っています。病院の方の活動をしたいという方も以前いました。もしかしたら、地域移行と連携しての活動をご希望の方もいらっしゃるのかなというところでもあります。

病院の方で、何かそういったピアの活動とか、ふれんどりいのピアってどうやってますかというご質問をいただくこともあったのですが、病院の方でピア活動みたいなのは進んでいらっしゃいますか。

【小杉委員】

成仁病院の小杉です。病院の中でのピア活動なんですけれども、やはり精神科の病院で閉鎖的なところがあって、なるべく外の空気というか、外の目を入れたいという気持ちもありまして、ちょうどコロナの時期だったんですけれども、ふれんどりいさんにも相談して、ピアの方に来ていただけないかを相談させていただいた時期がありました。ただ、やはりコロナの時期でありましたので、私達もふれんどりいさんとの連携は進まなかったんです。

やはりその中で何もしないわけにもいかないだろうということで、院内の中でもピア活動というのを少しやってみようということになりました。病院に入院されていた患者様で、退院された方で就労移行等を使

って就職された方に病棟の方に来ていただいて、病棟のプログラムに参加していただいたりですとか、その中でリカバリーストーリーをお話していただいたりして、支援の方に少し繋げていくような活動等を細々とですが続けています。また、相談支援事業所の方に、ピアスタッフの方を配置しておりまして、相談支援専門員としてピアとして、相談支援教育している職員が現在いるというのが我々の中でのピア活動となっています。

【森澤部会長】

ありがとうございます。他の病院の皆さんいかがですか。

【樺沢委員】

東京足立病院の樺沢です。当院の方でコロナ禍前は、かなりふれんどりいさんのピアさんにご活躍いただいていた。具体的には病棟に入っていたいて、療養病床で退院を考えている患者様とちょっと交流を図っていただいたりとか、病棟内のプログラムでリカバリーストーリーをお話いただいたりですとか、かなり地域移行の外出などもご同行いただいたりなど積極的に活動していただいていた。

コロナの影響で一旦そこが外部の方が入れないというところで、切れてしまって、やはり病院への影響もかなり大きかったというところもあって、外部の方を中に入れるという動きを、当院では慎重にさせているところがあります。今は残念ながら入っていただくというところも難しい状況になってしまっております。

とはいえ、先ほど小杉委員がおっしゃったように、病院の中だけではなくて、地域で生活されていらっしゃる方々に支援をし

ていただくという名目で、少し外来の方のエリアにも入っていただくかというようなお話なども出てきています。また、やはり病棟の方にも何とか入れないかというふうに、院内の方でも、ピアさんのお力をお借りしていけないかというお話も最近は出ています。

今後、病院の方で受入れが多少緩和されてきた時にはぜひ、ご活躍いただきたいなと思っております。

【森澤部会長】

ありがとうございます。ちらほら病院の受け入れも少し緩んできたりですとか、病院の方で、ピアの方が、院内での活動をされていたりというところがあると思うのですが、視察の点も含めて、今後のピアサポーターの養成や支援事業、活動の範囲、幅を広げていくというところで、皆様からお声をいただければと思います。まず久下委員からいかがでしょうか。

【久下委員】

今、デイケアを担当していますが、日々のことだけで、ピアさんに入ってもらったかそういうことはなかったんですけど、1人でも、ピアメンバーになってくれば、そういうふうに行くのかなと思っています。

研修の紙を送っていただいた時に、誰か行かないかなと思うのですが、みなさん高齢化していまして、今現在、そこに対応するメンバーがいないのが現状です。でも、今日お話を聞きましていろんなところでやっているのであれば、こういう方がいますということだけでもプログラムで入れようかなと思いました。帰ったら相談しますので、その時はよろしく願いいたします。

【森澤部会長】

ありがとうございます。ふれんどりのピアって今、何人ぐらいいますか。定例会に来られる方って10人いらっしゃるんですか。

【西村委員】

10人はいません。7人とか、少ない時は5人ということもありました。

積極的に活動している方も、4、5人というところですか。

【森澤部会長】

ありがとうございます。そうするとやはり、全体の総数も増やしていくというところでは、いろいろなお声掛けですとかも必要のかなと思います。続いて、鈴木委員、もし何かご意見ありましたら、いただけませんかでしょうか。

【鈴木委員】

綾瀬病院の鈴木です。ピアサポーターさんには、1、2年前に、地域移行支援の退院促進の対象になっている患者さんに、お一人、ついていただいた経緯がありました。くらふとさんからのご紹介で、ピアさん自身はかなり優秀な方でした。すごく細かいところまで、気遣いというところでサポートいただいて、すごく感心しました。こういう部分を助けていただけると思いましたが、それを多くのピアさんにも求めることはかなり難しいのかなと思います。恐らく、ピアサポーターとして安定した活動をするというのは、ハードルが高いものもあるでしょうし、初めから地域移行に、退院促進に、ということではなくて、足立区としてピアサポーターの対策がどれくらい、どういうふうにあるのか実態をまず出して、示

していただく、少しずつでも具体的にどういうふうにしていくのかというお話合いができればいいのかなと思います。

自分に関わっている患者さんたちを見回しても、退院した方を見回しても、ピアサポーターとして活動できる、活動していただける可能性がある方って、本当に数名という感じです。私が思い浮かべる方たちというのは入院していた人たちですから、外来だけで見ると、もう少しいらっしゃるかもしれませんが、かなり時間も労力もかかる場所なので、予算的にどうしていくのかっていうのが大きな部分があると思います。

今ふれんどりさんの事業の中の一部としてピアサポーターさんの養成とかされているのかなと思いますけれども、ピアサポーターの予算を足立区で取っていないと広がらないのではないかなと思いました。

【森澤部会長】

貴重なご意見ありがとうございます。予算ですとかそういうところは何かワーキンググループでもお話されていたりしますでしょうか。

【事務局 田中】

小松川さんの方では、ピアサポーターの支援員ということで1人分予算がついていますが、それも含めて、事業化するにはどうすれば良いか、ワーキングで検討しています。

また、予算の話とは外れますけれども、ピアサポーターさんの体調管理というところでは、ミーティングをそのために何回も行っているということ、またサポーターさんを支援するスタッフの支援というところが重要だということではワーキングでもお

話が出ているところです。

【森澤部会長】

ありがとうございます。ちなみに、小松川さんは、そういう形で職員さんも1人、ピアでしっかりとそこを支援する職員が事業についているということですが、皆さんのピアサポーターさんたちの活動に関して、例えば交通費が出るとか、それ以外のものはあるのでしょうか。

【事務局 田中】

ピアサポーター支援で一人分予算はついていますが、お一人の方が専任でついてるわけではなくて、スタッフの中で、やりくりをしているということです。その他、手当等はお調べするのでお待ちください。

【森澤部会長】

先ほど、鈴木委員がおっしゃったように、やはり地域移行と組んでやっていくピアさんですとか、病院訪問とかいろいろな形があると思います。より地域移行にしっかりと入っていく方は、気遣いやサポートができる方ですとか、いろいろと体調も安定しているということも必要なのかなというところが垣間見えることがあるかと思います。
続きまして吉村委員いかがでしょうか。

【吉村委員】

大内病院の吉村です。大内病院では、ピアの方が病棟で活動に入った記憶がないので、あまりまだ積極的にそういったことはしていないと思います。ただ、今は売店にはピアの方が職員として、実際に働いていらっしゃると思います。その方たちが、私がピアですよとオープンにして接しているかという、まだそこまでではないので、今後は、

地域の部門の方で、ピアのことも含めてですけれども、退院促進に関わることで、いろいろ手を広げていこうとか、一緒に活動を強くして行こうという動きはありますけど、まだ具体的にはなっていない状況です。

【森澤部会長】

ありがとうございます。大内病院さんは、きれいに建て替えられて、新しいスタートなのかなと思いますが、やはりそういうピアの活動に関しても少し動きが見えてくるところかなというところでしょうか。

【事務局 田中】

先ほどの話ですが、ピアスタッフについては、それぞれ、働いただけの時間分の最低賃金については、その他の報酬については、依頼があったところからの報酬で賄われています。ですので、小学校などの活動ではボランティアのところもあるのかもしれませんが。

【森澤部会長】

企業等からは、謝礼金をいただくこともあって、そういうところにも行かれているということですね。

ちなみにそういった活動には職員の方も一緒にもちろん行かれるということですか。

【事務局 田中】

職員の方も一緒に行かれています。

【森澤部会長】

では、ちょっと中断してしまいましたが、内田委員から何かありましたらお願いします。

【内田委員】

クララの内田です。よろしく願いいたします。ピアサポーターさんの研修のおしらせ等はふれんどりいさんからいただき、目にすることは度々あります。実際に、ピアさんに来ていただきたいな、お話をしていただきたいなと思うことがかなりあります。そのような時にどこにどうやってお声をかければいいのか、どのように探せばいいのかがちっとわからない。

多方面にお電話をかけたりもしますが、なかなか該当の方がいらっしゃいませんというお返事をいただきます。ボランティアセンターには、ピアさんではないのですが傾聴ボランティアさんをお願いできないか等のお問い合わせを入れることもあります。

二つ目に、実際グループホームクララにピアスタッフとして、クララ卒業生に来ていただいていたことがあります。代替世話人さんに支払う賃金をお支払いして来ていただいていた。結局、クララがグループホームなので、そこからアパートに出ていく不安を皆さん感じています。その為に卒業した先輩が「大丈夫よ、ここでこういう練習していたから、地域に出たって怖くないよ」ということを、お掃除等を一緒にしながらお話をしてください。

卒業生のかかわりが、とても効果がある事を実感しました。やはりピアさんが自身の体験を通して発する言葉には説得力があると感じました。

【森澤部会長】

素晴らしいですね。ピアの方が、地域で、グループホームを出ても大丈夫だよ、生活できるよと言ってくれる言葉の重みって本当にありますよね。同じ方たちができていれば、自分もできるのではないかという気持ちになれることはとても大切で、ピア

の活動の原点なのかなと思います。

クララでピアの方に来ていただきたいな、と思った時がありますとおっしゃっていた内田委員の、その思う時を教えてくださいてもよろしいですか。こんな時にピアの方に、入っていただけるとありがたいなという程度でいいですが。

【内田委員】

おそらく、改めてピアさんが来ますよと発表すると、メンバーさんも構えると思いますが、来ていただいて、一緒に作業しながら、その中で雑談のような形でお話をしていただくと安心してお話が聞けます。当然皆さん、通過型で期限がある住まいにいて、自分は出ていかなくちゃいけないという不安を持ちつつの生活なので、地域で暮らしているピアさんに、自分も生活しているけれどもこんなことが大丈夫だった、こんなことは困った、あなただけじゃないわよというようなことを言ってもらって背中をすごく押していただけると思っています。そこに関しても、定期的にとかではなくとも、単発的にでもいいので、交流の機会が持てたらいいなと思っているのがまず1点目です。

2点目が、定期的に来ていただけたらありがたいなと思うのは、入って比較的すぐの方のところで、特に、一人暮らしをしたことがなくてすごく寂しいと思っている方です。当然、世話人も1日に8回とか面談をすることもありますし、夜中の電話の対応や、呼び出されての訪問等、かなりの頻度は会っています。しかし、そこで、同じような形で心配しなくていいよというお話を、ピアさんにもしていただくと、入ってすぐのメンバーさんは落ち着くのがもう少し早いかなと感じています。

【森澤部会長】

ありがとうございます。そういう時には、初めての方というのは、やはりおうちに訪ねていくことの効果の方が大きいということですかね。どこかでお話されておうちに戻るというよりは、生活の場所で話すということですよ。いろいろと皆さんのお話を聞いていると、既にピアでやっているんだとか、この辺が、これからできるんじゃないかなというところがいろいろと見えてくるなと改めて思いました。

続いて、秦委員、視察も行かれていらっしゃいますが、ワーキンググループに入られている視点の中から広くお話いただければと思います。お願いします。

【秦委員】

まず、そもそも、ピアサポーターの方の情報収集をすることになったきっかけは、にも包括ワーキンググループの中で、まず、病院から地域に戻る時に、住まいの問題が一番問題ではないかという話しが、事例検討で出たことです。その中で福祉事務所や、くらしとしごとの相談センター、住宅課の方を交えて、どういう形であれば、そこが少しでもスムーズになれるのかというところをまず検討させていただいて、ある程度、課題が分かってきたというところです。

長期入院されている方々がどういう状況で、退院を希望されているのか、年代層がどれくらい多いのかというところで、令和5年と6年で実際の状況、足立区内の5病院の入院患者さんについて書面と対面で調査をしたところです。

その中で出てきたところは、語弊があるかもしれませんが、長く入院している方は、もうご高齢で、逆に社会復帰するより病院

にいらした方が安心して暮らされる方もいらっしゃる。だいぶ時代が変わっていますので、地域に戻ったときに結構混乱されてしまう方もいます。そこで方向転換を考えて、蛇口の水道で考えると、既に水として出ているものの中は少し静観するような形で、ADLが難しい方は入院していただいて、蛇口を締める方向として、入院されて日が浅い方をできる限り早く退院させるという形でちょっと目を向けたときに、ピアサポーターさんのお力って、とても重要だよねという話があがりました。

足立の現状を見ますと、人口に比して、ピアサポーターさん自体の人数もちょっと少ない上に、養成育成に関して地域の関わり方のアプローチの選択肢が少し不足しているのではないかという話も出たので、活動を盛んにしているという江戸川区の地域活動支援センターに視察に行って、どういう体制でやっているのかというところを確認したところです。

江戸川区の視察では、現在13名がメインでピアサポーター活動をしており、その周りには「となりのぴあさん」というところで、関わるところで関わる、準会員のといいますか、少しハードルが低い方々も大勢いらっしゃいました。小松川でも、5年かけて13名、ある程度、オファーのあった企業への要請に対応ができる方が育成されていました。ただ、それもスポットスタッフさんが伴走支援しながらやっていくというところで、改めて時間がかかるものなのだなと感じたところです。

それに向けて、今ふれんどりいさんの方で区の施設としてもやっていただいているので、今やっているピアサポーターの養成を、もう少しテコ入れをしていただきながら、予算をつけて動いていきたいと考えて

いるところです。ピアサポーターさんの方の支援ということで、長期入院患者というよりも、早期退院に向けてなるべく早めに退院できる方々を対象にして活動を行い、退院する方を増やしていきたいと考えているところです。

ちなみに先ほどピアサポーターさんの旅費の話がありましたが、小松川センターと目と鼻の先に小学校があり、そういう近隣の地域活動の繋がりの中で小学校に定期的に入っていくようになったようです。下は3年生から6年生までで、ボッチャなどのスポーツ交流を踏まえながら、徐々に事業参画していったという動きがあるらしいので、地域のつながりを考えながら活動に積極的に入っていくことも必要かなと感じたところです。

【森澤部会長】

足立区でも主に身体障がいを受け入れているあいのわさんは、小学校と連携して小学校の事業で4年生あたりの方たちにそういういろいろな共生社会の勉強をしていただいて、施設のお祭りでその4年生が歌を披露したりして、やはりそういう地域の連携というの、今後広げていく必要があるのかなというところと、いろいろとご意見やご報告をいただいて、ピアサポーターが5年かけて13人になったと、改めて、長年かけながらここまで来たんだということを感じることができました。

続きまして、初鹿野委員に今の意見交換を通して感想等ありましたら教えていただけたらと思います。

【初鹿野委員】

中部第一福祉課の初鹿野と申します。

先ほどから病院での実際の話とかグルー

プホームの方のお話を聞いていて、ピアサポーターの方の果たす役割って非常に大きいんだなということを改めて実感したところです。

ただやはりどんなボランティアもそうなんですけど、育成して増やすというのはどんなボランティアでもかなり難しい状況にあって、特にこの精神障がい者の気持ちに寄り添うという部分では、他の障がいのサポーターとまた違う難しさもあるのかなという、そんな感想を持っているところです。

【森澤部会長】

それぞれの障がい別ですとか、置かれた立場ですとか、配慮事項ですとかいろんなことが変わってくる中で、ピアサポーター養成は、なかなか難しいのかなという感想をいただきました。ありがとうございます。続いて、増田委員いかがでしょうか。

【増田委員】

皆様、貴重なご意見ありがとうございます。いろいろ頂いたご意見の中で、特に今回感じたのは、ピアサポーターの重要性又その存在自体の重要性について非常に感じたところです。

まだ足立区では人数的には少ないところですが、やはりこれを少しずつでも増やしていき、より精神に障がいを持っている方々のサポートができる、そういった社会資源の一つにしていければなと思った次第です。

【森澤部会長】

ありがとうございます。続きまして、石黒委員いかがでしょうか。

【石黒委員】

精神保健福祉センターの石黒です。今いろんなご意見お聞きして、そのことについて僕も改めていろいろ考えてみたところもあるんですけども、今とにかくいろんな意味で、ピアサポーターの方の力というのがすごく大事なものだということが言われています。

従来ですと例えば地域移行で、長期入院の方がなかなか外に出る意欲といいますか、外が怖いとか、いろいろ社会も変わってしまっていてということがあったりしたときに、ピアの方が実際やっていることをお話ししていただくとか、そういったことで、すごくその一歩を踏み出す動機付けになったりするということが言われています。

そういう意味でも地域移行、それから地域に出てからの生活に関しても、いろいろサポート支援ができる部分があるんじゃないかということが一つあるのと、それから私もこちらのセンターに来てまだ2年目ですけども、いろんな区でこのピアサポートの事業とかいろんなことをやっています。本当に区によって、実際ピアサポートのやり方とか、どんなことをやっているか等は本当に様々で、改めてこのピアサポーターの可能性を感じている部分がございます。

うちのセンターでも、何年か前ぐらいから区と一緒にやっている事業的なものとして、ピアサポーターの方も交えた事例検討というのがあり、私も参加することがあります。非常にその支援者側の視点だけでなくて当事者としての視点で、こういうふうにしたらもっと何とか介入ができるとか、いろんなことをサービスに繋げやすくなるとか、改めて、こちらもはっとすることがあったりします。そういう意味で、ピアの方のこれからの活躍といいますか活動の仕方というのは、すごくいろ

ろ可能性があるんだなと思っている次第です。

見学に行かれた江戸川区ですかね。区によっていろんな違いがある中で、背景として一つあるのは、多分それが絶対じゃないですけど、区に精神科病床が本当に無いところと比較的あるところとでは、地域性が変わってくるんじゃないかなというのがあります。

文京区も割と、ピアで独自にいろんなことをやっていて、その活動を聞いていると、面白いことがあって、病院にいろいろ入って一緒に音楽のことをやったりする事業とかですね。そういったことは、ちょっと新鮮なものを感じました。先ほど言ったように足立区の利点としても、比較的精神科病床が実際近くにありますし、コロナ禍でいろいろ残念だったと思いますが、病院と交流というか、うまく外の風を入れたり、入れあったりして、それがピア活動にもつながることになるのは、意外と現実的に考えていいのではと思いました。

【森澤部会長】

ありがとうございます。病院の働き掛けですとか、地域に住まわれてからの働き掛けですとか、いろいろな可能性があるというところを石黒委員がまとめてくださったかなと思います。それで江戸川区は、病院、入院病床がないというところの状況はいかがですか。

【事務局 田中】

私も、江戸川区がなぜこんなに盛んなのかは思いましたが、やはり区に精神科の病床がないので、地域でどうにか支えなければいけない、入院をさせずにどうにか地域でみんなで支えていきたいというところで、

地域のネットワークや地域活動支援センター、ピアサポーター、ショートステイ等を活用してやってきているということが視察でわかりました。

【森澤部会長】

そういう点で先ほどあった足立区らしい足立区の現状を踏まえたというところで、石黒委員がおっしゃったように足立区の現状に合わせて、病院がたくさんある中で病院と連携して活動を進めて行くことも一つかなと改めて感じました。ありがとうございます。

では、続いて家族会の立場から片桐委員、いかがでしょうか。

【片桐委員】

私は家族会のあしなみ会の片桐です。皆さんと違って利用させていただく立場からですが、訪問看護とピアサポートと、内容的にはどうなのでしょう。

訪問看護は、最近利用させていただいていますが、本人から聞くと、30分40分ぐらいで、時間が短くて思うことができないと。ピアサポーターさんはそれにかわって話の相手をしていただけるのか。違いがどの辺なのか。時間はどのぐらいの長さで使わせていただけるのかとか。入院している方、退院を目指す方に対する役目が主なのか、退院して1人で生活している人が、それを利用することができるのか、今、お聞きしていて疑問に思いました。

【森澤部会長】

訪問看護は医療の方なので、医療従事者というところでは、バイタルを計ったり、お薬の服薬状況を確認されたりというところがあると思いますが、ピアの方は当事者

の方で、ピアサポートの勉強をされている方なので、医療的な何かというところがなく、恐らくお話を聞くところまでです。今はピアサポーターの訪問事業みたいなことはやっていないので、時間に関しては分からないところです。

【片桐委員】

一人暮らしを長い間していて、話し相手が欲しいとか、そういう利用ができるのでしょうか。

【森澤部会長】

利用ができるようになるといいですね。

そのような体制があれば、入院している方の退院したいと思う動機付けももちろんですし、地域に出てからの、ちょっとした寂しさや不安に対して、ピアの方が今まで経験された生活の知恵をお伝えしていくみたいなのところと、両方ともできるといいですねというご意見だったのかなと思いますが、いかがでしょうか。

【片桐委員】

そうですね。

【森澤部会長】

ちなみに、クララの方で卒業生がいろいろとピアとしてお手伝いしてくださった時、時間と内容をもう少し具体的に教えていただいてもよろしいですか。

【内田委員】

比較的力があって、それで安定している方というところではありますが、1回で大体2、3時間。疲れているようであれば2時間だったり、1時間半だったりということもありますが、おおよそ平均すると2時

間で、その間にお食事をメンバーさんと一緒に作ってもらったりお買い物に行ったり、お部屋に入ってお掃除を行ったり、代替世話人という立場で皆さんの部屋に訪問していただいていた。大変人気で、その方が来る日は、何時にお部屋に来て欲しいと要望があります。そうすると、クララが7名定員なので、少しずつ周っても、結構な時間がかかります。全員のところに行くと疲れてしまうので、来た時に2人とか3人とかです。その時に、自分がこうやって頑張っているよということをメンバーさんにお伝えしています。家事にしても、その方が洗濯物の干し方やお料理の仕方を教えると、すごく理解が良いですね。皆さん、この人がやっていたから自分もできると。クララのメンバーだった事は、皆さんわかっている、自分と同じメンバーが、こうやって1人暮らしをして、今こうやってお仕事に来てくれている。皆さんこんなことができるようになるんだというのが実感でき、また安心もできていたと思います。

【森澤部会長】

片桐委員、なんとなくイメージがつかましたか。今すごい素敵な言葉をつぶやかれて、「希望になると思います」とおっしゃっていたので、そういう活動がピアのサポーターさんの活動なのかなと改めて思いました。

精神に関わらずだと思いますが、例えば内科的な病気を抱えていても、その同じ病気を抱えている方がお仕事をされていると、私達も大丈夫だ、やっていけるといふところがあると思うんですね。そういったピアの活動は本当に有効的だなと改めて思いました。

西村委員最後になりますが、いかがでし

ょうか。今のピア活動にからめて。

【西村委員】

まず一つ考えたのは、ピアサポーターは、私が研修を受けている感じでは、成長するということと、相手の言葉を引き出すということの2点。それがまず大きな目的です。

退院したらこんなことができるよと、模範ではないですが、事例になると思います。

江戸川区では13回ほど研修をやっていると聞いて、私は驚きましたけれども、今の段階でそこまでやれるのは、多分かなり相当、区の方で力を入れているからであると思います。足立区で研修をやると、その後ピアサポーターの活動を続けるのは1人か2人みたいな感じで、なかなか、今、難しいところです。

ただ、私は何ができるというわけでもないですが、病気を持ちながらも、作業所に毎日行って、なおかつ、こういう会議にも出て、ピアサポーターの活動をしてというようなことを伝えと、病気が治ってもないのに、なんでそんなに活動できるんですかとストレートに聞かれることが多いです。

先ほど申し上げましたが、話をしてくださる方が、病歴から、服薬から、最悪、薬を飲むのを止めちゃうことまで、私に話してくれたりしますので、そういうことはなかなか、ほかの職業の方でも、特に福祉関係者の方には言いにくいのではないかなと思います。そういう意味で、例えば、訪問看護の方と一緒にやって、他の方はバイタルについて何かやっているときに、一緒にお話したりして、医療関係者や福祉関係者に話しにくいことを話してくれるようなそんな役割にはなりたいと思っています。

【森澤部会長】

先ほど、模範というのはあれかもしれないけど、とおっしゃっていましたが、同じ地域の生活者ですし、皆さんの目標たるもの、そして希望であるのがピアサポーターなのかなと改めて思いました。皆さんありがとうございました。

いろいろとご意見いただきまして、こちらのご意見をまたワーキングの方に持って帰っていただいて、検討していただくのかなと思いますが、実態をもう少し示して欲しいですか、具体的にどのようにしていただけるのでしょうかというようなご意見もいただき、研修や、病院等との関係性、連携の課題等もあるのかなと思っております。

一朝一夕にはできないところではあると思いますが、ワーキングと協力しながらこの意見を持っていただいて検討を重ねていけるといいのかなと思っております。あとは長期入院の方に対して以前お話もあったと思いますが、その後のフォローというか、樺沢委員が本会で意見を出していただきましたが、そちらの方にも力を入れるよう考えていく必要があるのかなと思いますが、いかがでしょうか。

【事務局 田中】

長期入院の調査ではお世話になりました。ありがとうございました。

大変遅くなりましたけれども、少し前に調査結果については、ご協力いただいた病院の院長宛に送らせていただきました。

今回の調査は、そもそも実態調査のためというところで入らせていただきました。ただ、やはりその後、患者さんのところで外から面会が来たけれどもその後はどうするのかというところで、それも含めて今後どうしたらいいか検討し、ピアサポーターさんの今後の活動を広げていくということ

ろで考えております。

【森澤部会長】

樺沢委員、何かありますか。

【樺沢委員】

東京足立病院の樺沢です。長期入院者の方い対し、病院の方に調査に来ていただいて、患者さんの方が、また来るんですかと少し気にされたというところで、その後どうでしょうかということで、事務局の方に伺わせていただきました。

本会の方では、どのようにいつまでに何をするか具体的なこともご検討くださいということでしたので、是非、ワーキングの方では、いつまでに何をというところを是非、ご検討いただけるといいかなと思っております。

【森澤部会長】

ワーキングでの検討は大丈夫でしょうか。よろしく願いいたします。他に何か今までの流れの中で質問等ありますか。

【西村委員】

一つだけ申し上げたいことがあります。ピアサポーターを呼びたいと思った時に、すぐに呼べるような体制を作っていただきたいなと思います。一つよく聞くのは、どこに頼んでいいのかわからないということが一つと、頼んで何かの役に立つのだろうかというそんな疑問が、まずあるのだらうと思いますが、少なくとも2番目は、長い時間をかけて啓発していかなければならないと思います。

1番目については、クリアにしていきたいなと思います。例えば、区役所に電話して、ピアサポーターを頼みたいんです

けどと言ったら、すぐ担当につながる等のようなことがあると非常に助かると思います。わからないことが多分、多すぎるのではないかとっております。

【森澤部会長】

ありがとうございます。今後そのような仕組みも作ってしっかりと啓蒙啓発して、皆さんで共有していかなくてはいけないですね。ピアサポーターさんを育成するだけじゃなくて、こんなことやってますよということが大切ですよね。営業もしていかなくちゃいけないなというところもワーキングでまた持ち帰っていただいて、お伝えしていただければと思います。

他には何かありますでしょうか。

大丈夫でしょうか。はい。それでは以上で審議の方、終わらせていただきたいと思います。

続きまして、次第8に移らせて頂きます。各部会員からの情報提供等というところで、中部第一福祉課の初鹿野課長より、資料4のご説明ということでの情報提供をいただいております。よろしくお願いいたします。

【初鹿野委員】

中部第一福祉課の初鹿野です。それでは情報提供資料として、生活保護の足立区の執行状況などを簡単にご報告させていただきます。

見ていただいたらわかる通り、保護率は微減という状況が続いています。日本全体でもそうですが、だいたい第二次世界大戦後、昭和20年頃から、全国でも2%を超えるような生活保護の受給状況で、それが高度成長期、バブル等に従って下がり、バブルが崩壊してそれからリーマン・ショッ

ク、それからコロナがあり、再び高まっているのが今の状況で、全国的にも今2%を超えています。足立区に関しては3%で、23区の中でも一番高い状況にあるということです。

資料4の2番目の生活保護開始理由は、最近の傾向で、預貯金等の減少、喪失が最も多く40%前後、それに続いて世帯主、世帯主の傷病が20%、失業が15%前後ということになっております。預貯金等の減少喪失が中でも一番多い理由になっていますが、足立区でも、保護世帯の55%が高齢者世帯、要するに、年金と貯金で生活をしてきた方の貯金がなくなり、年金だけでは生活できなくなって生活保護を受けるという方が多くなっています。

資料4の3番目が、被保護世帯における精神保健手帳所持者数、これはあくまで、推計の段階ですが、精神疾患等の入院中の被保護者約3400人、そのうちの15%前後が精神保健手帳を所持しているものと想定しているところです。

それから、資料4の4番目、生活保護制度における精神疾患のある被保護者への対応でございますけれども、最低限度の生活を送るだけの金銭的な給付、それから医療費の支給を含めて、それ以外ではやはり資料4の4の(2)に書いてあります東京都の法外援護で、年間7万2千円までのカウンセリング治療が可能になりました。

それから資料4の4の(3)が、病状が安定し、勤労意欲があった方にはJOBサポート足立による伴走型の就労支援サービスを提供していこうとしています。特に、精神障がい者手帳をお持ちの方が安定して就労意欲があります。法定雇用率が上がった関係もありまして、かなり精神障がい者手帳をお持ちの方の就労がしやすくなって

いる状況であると聞いておりますので、積極的にこの辺を進めているところです。

資料4の5番目は、生活保護行政における最近のトピックスでございますけれども、皆さんも新聞等でご覧になっていると思いますが、生活保護を減額訴訟における最高裁判決が出まして、2013年から3年にわたって生活保護の支給を最大で10%引き下げたことについては、違法という取り扱いになったということです。ただ今後、違法になったことに対してどういう手当てをしていくかというのはまだ具体的に国から通知がされていない状況で、福祉事務所の方に、数件程度問い合わせが来ているということでございます。

【森澤部会長】

ありがとうございます。

他には何か情報提供はありますでしょうか。

では、ふれんどりいからです。9月27日の土曜日、ふれんどりい祭りをふれんどりいにて開催いたします。こちらでは、ピアの方も他の事業所の製品を販売していただきますので、ぜひ、いらっしゃっていただけるとありがたいかなと思っています。模擬店も出ます。チラシ等も関係機関に行くかと思っておりますので、もし9月過ぎに届いていなければ、ふれんどりいにご連絡いただければ、送らせていただきます。

他は大丈夫でしょうか。それではありがとうございました。

本日は本当に多くの有為な意見をいただいてありがとうございました。議事はこれにて終了となります。最後に本日の部会の検討内容については、自立支援協議会本会へ報告することになっておりますが、報告書の取りまとめについては、私と事務局で

進めさせていただきますのでご了承ください。それでは、事務局へマイクをお返しいたします。

【事務局 本間】

森澤部会長ありがとうございました。事務局より、事務連絡がございます。委員の皆様への謝礼の請求書類、本日提出されなかった方につきましては、後日、足立地域支援協議会本会事務局である障がい援護課までご提出いただくようお願いいたします。次回、精神医療部会ですが、令和7年12月19日金曜日午後2時からこちらの場所で開催を予定しております。皆様ご出席いただくようお願いいたします。なお本日の議事録について案ができましたら、皆様に送付いたしますので、内容のご確認をお願いいたします。私からは以上となります。

以上をもちまして足立区地域自立支援協議会第1回精神医療部会を終了いたします。